



＊第19回＊

菅野尚子, 田中 雅

ソニー

技術が生み出す 感動をお客様へ

～二人のリケジョが辿り着いた場所～

まえがき

今回は、ソニーの研究開発部門で働く入社4年目の女性エンジニアが、職場の様子や、リケジョになった経緯、今目指しているエンジニア像を対話式でまとめました。少しの間、お付き合い頂けましたら幸いです。

今のお仕事は？

田中 4K 超短焦点プロジェクタ『LSPX-W1S』の開発に携わっています。短焦点プロジェクタとは通常のプロジェクタよりも近い距離から投写ができるので、壁際に設置できます。2014年9月にアメリカ、2015年1月に日本で発売しました。光源は固体光源ですが、発熱が大きいので信頼性を担保するには冷却機構が必要です。そのために冷却機構のシミュレーションをしていました。現在は、次世代機の光学設計をしています。

菅野 とてもHot topicですね！設計はどんな感じですか？

田中 ずばり、今の仕事がとっても楽しいです。ちょうど試作期間で、光学部品もメカもどんどん試作して、新しい価値をチームで目指して開発している感じが、たまりません！仕事をしている間に技術課題も明確になってきたり、そこから最適な解を探したり。

菅野 同じく私も！私は入社してから、ネットワーク配信向け低解像度動画を、超解像技術を用いて綺麗にするアルゴリズムをリアルタイム再生できるように技術開発を行っています。商品化に向けて日々、何のために何をどうやって実現するかを考えながら、プロトタイプングをします。じっくりと考えながら物事が進められる仕事環境はとても幸せですね。要素技術開発から具体的商品を目指して走る日々、たまりません！

田中 明確にPDCAを回せる楽しさがありますよね！

菅野 そして、最終商品をお客様にお届けできることを夢見ながら日々を過ごせることも、大変だけど幸せな時間です。

大学時代の専攻は？

菅野 今の仕事は、大学の頃の専攻に直結しているのですか？

田中 関係はしています。光情報工学という、コンピューショナルオプティクスの研究で、理論を学ぶといった感じです。具体的には、ホログラフィックディスプレイの広視域化に取り組んでいました。現在の仕事のように設計はしたことはありませんでした。

菅野 会社に入ってから新しい体験ばかりですね。私は田中さんと少し違って、分野が変わっています。大学の頃はLSIの電源電圧分布シミュレーションをやっていました。LSIのフロアプランや最適化問題をFPGAやGPUを使ってシミュレーションするという

た研究で、画像処理は会社に入って初めて学びました。

田中 高専時代は何をやっていたのですか？

菅野 電子情報工学科という学科で、電気回路や電磁気学、マイコンの勉強をしていました。文化祭の出し物は“電光掲示板”で、はんだ付けが好きな女子でした。

田中 変わったリケジョの始まりですね。なぜ高専に進もうと思ったのですか？

菅野 親の影響が一番大きいです。家族に理系はいませんが、中学校の頃には、レゴのマインドストームが家にあったり、自作PCも夏休みの宿題で作っていました。田中さんのリケジョ人生はどうやって始まったのですか？

田中 兄が理系で、その影響を受けました。数学も好きで、物事をステップに分けて、論理的に考えていくところに魅力を感じたのかな。そしてその中でも、光や色に興味があって、3Dでその美しさを人に届けたいと思うようになったのは大学院の頃です。

菅野 そういった意味で、お互いの家族に感謝ですね。男女に関係なく、理系の道を示してくれたり、環境を与えてくれたり。そして、こうやって私たち2人がソニーで出会えたり！

就職活動はどうでしたか？

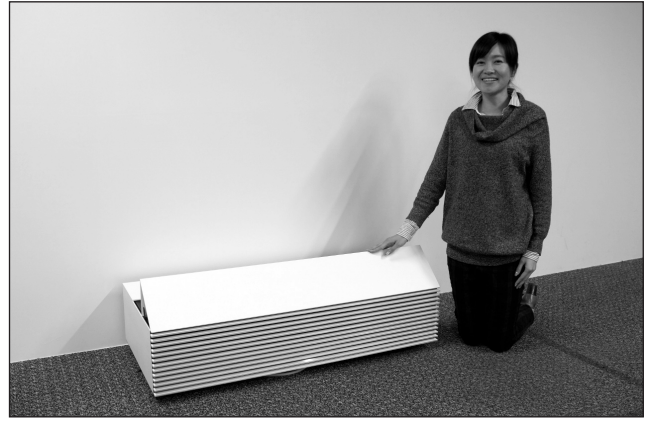
田中 ただただ焦っていましたよ。行きたいと思う会社は限られていたけれど、焦りもあって、希望以外も受けていました。でもやはり、自分が合っ

↑ソニー株式会社

"Inspiring Users Through 'Wow' Technology: How the two women engineers found their way to Sony" by Hisako Sugano and Masa Tanaka (Sony Corporation, Tokyo)



菅野職場風景 集合写真



田中職場風景 短焦点プロジェクタ

ていると感じる場所では採用をいただけて、想いの少ない会社には落ちてしまいました。

菅野 面接に現れますよね。私も、面接官の方とお話をされていて、やっぱりソニーに入りたい！と実感したことを今でも覚えています。

田中 菅野さんは、なぜソニーに入りたいと思ったのですか？

菅野 グローバル企業であること、いつも新しい製品を世の中に出し、問うていること、そしてソニー製品に囲まれて育った影響ですね。

田中 わかります！エレクトロニクス事業の幅広さも一つの魅力だと思います。一番思い出に残っている製品ってありますか？

菅野 2007年発売の有機ELテレビ『XEL-1』です。ちょうどその頃、学校で液晶と有機ELの原理を勉強していて、有機ELの利点を液晶に比較して先生も教えてくださるのですが、「技術課題にディスプレイサイズの拡大だ。」と。そんな矢先に発表されたあのテレビは衝撃でした。

田中 大きな話題になりましたね。私も高校生の時にどうしてもソニーのウォークマン®が欲しくて買ってもらいましたよ。こうやって製品を通して、常に新しい技術で世界中の人々の生活を豊かにする商品を、この会社で送り届けたいと思い始めたのもそのころでした。そんな経験もあり、B2BよりはB2Cが希望でした。

ソニーの魅力って？

菅野 “人”。この一言に尽きると思います。これまでの大先輩や、今一緒に仕事をしているチーム、常に刺激的な同期。私の仕事をする環境も恵まれているし、こんなにも素敵なエンジニアが集うソニーは、本当に恵まれていると思います。

田中 そう、優秀な人が多すぎて。そして、優秀なだけでなく、個性や主張をしっかりと持っていて、輝いている人が多いですよね。あとマニアックな趣味をお持ちの方とか。

菅野 ねー！趣味にも全力投球といった方が多い。そういった、仕事と直接関係のない話をしながら、将来を妄想する時間も大好きです。“Work Life Balance”というよりは、公私混同しながら、ユーザ視点で新しい製品を探っている所が面白く、魅力的です。

田中 いろいろな人がざっくばらんに話せる雰囲気、やりたいことも主張できるし、ちゃんと話も聞いてくださるし、提案や方向性を示してくださるときもあります。

菅野 そして、真剣に話を聞いてくださる。

田中 活気がある組織の雰囲気って仕事をするうえでとっても重要ですね。逆に不足しているかなと思うところはありますか？

菅野 もっとインタナショナルでもいいのかなと思います。仕事はアメリカやヨーロッパにもありますが、オ

フィスの日本人比率が意外に高いかな？と感じます。確かにダイバーシティが進んでいることは実感するし、日本人エンジニアであることの喜びと誇りはあるけれども、世界で戦うためにも、たくさんの人の意見を聞きながら、いろんな視点でモノを作れた方がよいのかなあと個人的には思っています。各国の人々の考え方を自分の中に取り入れることもできますし。

田中 そうですね。例え言語が違ったとしても、相手の意見をしっかりと聞きながら、歩み寄る努力をすることが大事ですね。内容をしっかりとわかろうとする姿勢や気持ちが一番大切だったりするのかなあと思います。

エンジニアの職場をどう思う？

菅野 女性は部署に何人いますか？

田中 課のメンバの女性は2人です。菅野さんのところは？

菅野 私の課も女性は2人です。部まで広げると、8人で私の部署では約10%といったところでしょうか。

田中 男性が多いと、気を遣わなくっていいですね。

菅野 同感です。いや、男性陣は気を遣ってくださっているのだと思いますが、一切の区別を感じることなく、開発に取り組めています。

田中 さらに、ママさんエンジニアのパワーといったらすごいです！しっかりと仕事をしながら家事、子育てもして。職場では、“Work Life Balance”が取られていて、自宅では“Life Work



2人で旅行に行くことも



プレスト会

Balance”が取れている感じがします。

菅野 本当はとっても大変だと思いますが、職場では感じさせないというあたりも、流石です。周りにすごい先輩がたくさんいらっしゃるから、そういった意味でも将来に大きな不安がないですね。

田中 自分にもできそうと思える働き方の女性の先輩が多くて、日々尊敬しています。

女性としてのライフプランは？

田中 私は、女性としての人生も大切にしながら仕事をしていきたいなあと思っています。30代で結婚して、子供も欲しいです。菅野さんは？

菅野 うーん。私は具体的なプランは一切ありませんね。今は、新しいこと、面白い事ばかりを求めて自由に活動しています。もちろん、家庭を築くという素敵な選択肢もあるかもしれないけど、直近の目標ではないですね。“私は〇〇ができるエキスパートです。”と言えるようになることに夢中です。

田中 もちろん私も仕事では成長したいし、成し遂げたいこともあるので、両方を手に入れるために、スキルアップしないとあといや、と思っています。

菅野 そうですね。お互い伸び盛り。全力でそれぞれの技術分野に夢中になりながら、仕事もプライベートも頑張りたいですね！

どんなエンジニアになりたい？

菅野 やはりお客様にダイレクトに自分の作った技術をお伝えしたい、少しでもお客様に満足していただけるものを意識しながら形にしたいです。心の底からソニーの『お客さまに感動をもたらし、人々の好奇心を刺激する会社であり続ける』というミッションに共感しています。やはり、それは自分が経験してきたからでしょうか。皆さんにも共感していただきたいと思う、少し押しつけがましい気持ちでもありますが。

田中 私は、3Dディスプレイを実現させたいと思って入社しているので、将来的に実現させたいです。私たちは、研究が進んでいる技術を産業として導入するのがお仕事なので、お客様が使える形にして、世の中に出していきたいです。

菅野 なりたいエンジニア像は同じですね。ただ、約4年間ソニーで働いてみて、1人では何も完成しないから、尊敬する先輩方からいろんなことを勉強して、吸収して、その中でも大事なことは何かを意識しながら、考えて行動できるエンジニアになりたいです。

田中 そう。そして将来は、プロトタイプを1人である程度作れる技術屋さんになって、新しいプロダクトの開発を素早くできるようになりたいですね。

田中 将来、私たちが何のコラボ

レーションをしましょうか？

菅野 やっぱり、お互いが開発を通じて身につけたスキルを最大限発揮できるようにしたいですね！“映像”という共通分野をシェアできたわけですから。

田中 私の物理的な3D表示へのアプローチと、菅野さんの3D描画とかレンダリング技術のコラボレーションが魅力的でしょうか？

菅野 メンズには思いつかないような！そしてソニーだからこそ出せるようなチャレンジングなものを。

田中 また業務とは関係なく、ディスカッション・プレスト会をしましょう！

むすび

田中 リケジョと言われてどう思う？

菅野 有難いです。マイノリティとして扱っていただけるのは。

田中 ねー、すごく良い気分です。リケジョという言葉によって“理系”がポジティブなイメージになったと思います。ある一種のAdvantageといえますか。大学時代からお世話になっている雑誌に私たちの想いを書かせていただいたことも奇跡のようです。

菅野 本当に！次は、本業の映像・画像処理の内容で映像学誌に掲載していただけるように、頑張っていきたいですね！立派なエンジニア目指して頑張ってバリバリ修行しましょう。

(2015年2月5日受付)